

論文審査の要旨

報告番号	① 乙 第 301 号	氏 名	村上 尚来
論文審査担当者	主査 川手 信行 副査 鈴木 洋 副査 佐々木 春明		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>初回手術時の鼻形成術の要否は、変形が高度であれば同時に鼻形成術を行う意見が多く報告されている。鼻変形の主な要因として考えられるものが裂側上顎低形成であり、本研究では顎裂の重症度が鼻変形に関与しているか調べた。片側唇裂 43 名に対し、上顎歯槽模型を顎裂の重症度を評価は Pruzansky らの分類を参考にし、セグメントのズレがあるものを Group A ; 21 例、セグメントが整っているものを Group B22 例に分類した。鼻変形の形態的評価は 3D カメラを用いて撮影行い、鼻の非対称性について 7 つの測定点により鼻孔周囲の距離と鼻柱の角度を測定し、2 群間で比較した。また 5 つの鼻孔周囲の比と鼻柱の角度の相関関係について統計学的解析を行った。2 群間の比較では、裂側の鼻翼基部に比べて非裂側の鼻翼基部が Group A で上方への変形を認め、より高度な鼻変形を示していた。また鼻柱の角度と鼻孔底の比で強い相関を示した。</p> <p>以上の結果から、未矯正、未手術の片側唇裂鼻における鼻翼基部の変形は、上顎のセグメントによる変形が影響をしており、術者は顎裂の重症度によって鼻形成を考慮するべきであると結論した。本論文は学術的価値を有し、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名 : Association between three-dimensional measurements of the unilateral cleft lip nasal deformity and maxillary alveolar morphology: a retrospective study (片側唇裂鼻の 3 次元計測と上顎歯槽形態との関連 : 後ろ向き研究)</p> <p>掲載雑誌名 : Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery pii: S1748-6815(19)30177-9. doi: 10.1016/j.bjps.2019 掲載</p>			

(主査が記載、500 字以内)